

人と都市の深い絆

～生活しやすい都市～

はじめに

私は日本で3年に暮らした、京都や東京や福岡などの都市を観光した。京都は神社、寺がたくさんあり、これらは日本の文化の一部である。東京は経済中心として、人々が行きたいところである。都市によって、それぞれの特色をもっている。だからこそ、わたしたちはそれぞれの生活環境がある。都市は、人が「住む、働く、休養する」という行為およびこれを支えるエネルギーの流動と自然、建築、道路および公園などという物理的な形態の二つからなりたっていると考えられる。都市といえば、必ず人が必要である。したがって、人間生活を保護、保全し、生きがいを与える環境をつくりださなければならない。私の夢は人が生活しやすい都市を作る事である。つまり、みんなにその都市を好きになってほしいのである。

生活しやすい都市

生活しやすい都市は四つの条件を満足するべきである。

- 一つ目、住むところである。
- 二つ目、働く場所である。
- 三つ目、休養するところである。
- 四つ目、やさしい環境である。

住

住宅はもっとも基本的な要素であることはいうまでもない。住宅とは“家”である。これはただの生活行為が快適・能率・安全に行われるところではなく、`帰ることのできる場所`である。だから、住宅について、何年経っても、重視されるはずである。日本では、住宅の集合形式は三つに分かれており、独立住宅・連続住宅・共同住宅である。中国でも、大体同じで、共同住宅が一番多い、主要な原因は人口、土地である。私はそれがいいと思う。共同なら、人がたくさんいる、にぎやかな雰囲気を感じる。たとえば、中国では、夏になったら、みんなが外で散歩し、曲を聞きながら踊り、友人たちと暮を打つ。そのような生活がとても楽しいと思う。日本で暮らした3年のなかに、一度もそのような雰囲気を見た事がない。静かな環境も大事であるが、にぎやかな環境も不可欠である。そのにぎやかな環境を通して、他人と交流がうまくなれ、ストレスを下げられる。つまり、その団地の全体が`家`になる。

働く

働くのは生存するためである。働く場所がなければ、人が生きられない。都市が“活気”がない。都市が発展すれば、みんなの生活がよくなる。都市と人はその関係で繋がる。都市の発展が二つの方面から考えられる。一つが内部である。それは都市自身の特色を保有しながら、発展する事である。たとえば、神社、寺といえば、普通にみんなは京都を思い出す。それが京都の特色である。その特色を通し、京都は旅行業の発展を強化している。日本の文化を展現し、外国人は日本を好きになり、国際交流も密接になる。もう一つが外部である。外部とは、国内のほかの都市、国際のほかの都市のことである。一般的には、交流すれば、みんなは技術だけに注目し、他の方面を気にしなかった。実際、他の方面も都市の発展を促進できる。そして、一つの都市と交流したいならば、その都市の特色をしるべきである。特色といえ、ただ技術だけではなく、飲食・服装・装飾品などいろいろがある。たとえば、年一度の飲食祭、服装祭などを行えば、都市と都市は友好都市になることができる。そうならば、外来資金を導入しやすくなれる。それだけではない、消費の水準を向上することができる。同時に働く場所を増えるはずである。きっと都市の発展を促進できる。そして、他の都市の発展進度を理解でき、国際的な地位の向上に繋げるために努力する方向を明確できる。

休養

休養は人にとって、非常に重要である。よく休まなかったら、全力で働けないと思う。休養といえ、気分を変え、ストレスを下がることである。普通は、遊びが休養と思われるが、私はそれだけと思わない。本当の休養は健康を守ることである。だから、自然のなかは、一番いい環境だと思う。都市も同じである。発展し続けるまま、いつか負荷は都市が負担できる極限を超える。そのときがきたら、都市も崩れる。今はもう赤灯が明らかになった、私たちは注意しなければならない。私たちすでに地球温暖化・オゾン層破壊・酸性雨・森林破壊・海洋汚染などもうたくさん問題を起こした。その一つの原因は私たちが消費しすぎたことである。たとえば、クーラーを使いすぎること、車の数が増えすぎること、建築物を建てすぎることなど、いろいろな原因がある。だから、もっと前に進みたいならば、休みが必要である。

環境

環境の中は景観を含むと思う。景観とは、いうまでもなく文化なので、都市の現状を表現できる。芸術的景観を創出すれば、都市の美観を増える。そして、高い文化水準を感じさせる。たとえば、広場の設計である。一般的には、広場をその効用によって大別すると次の三つがある。交通広場 (Traffic Circle, or Square) 実用広場 (Business Square) 装飾広場 (Ornamental Square) である。この中に、装飾広場をあまり重視されない。経済時代に人々はもっと便利さとビジネスを重視する。なぜならば、利益をもらえるからである。だが、本当の`利益`を失ったかもしれない。装飾広場を例として、考えてみる。たとえば、広場の中央に都市の象徴的な建築物を建てば、非常にいい事と思う。そうすれば、都市を深く印象づけることができる。そのうえに、その都市を好きになる。それもとてもいい`利益`である。景観が都市にとって重要な存在である。

おわりに

人がいるからこそ都市と呼ばれる。都市を建てること、守ることは人がすべきである。人と都市は深い絆でつながっている。だから、都市をうまく建設できれば、私たちの生活はきっとすばらしくなれる。そのような都市を建てることは私の最大の夢である。

プロジェクト：住、働く、休養、環境 その四つの方面から考え、同時に発展する。

プロジェクトの目的：都市のバランスを守ること。

都市の雰囲気を変えること。

国際交流はうまくなり、生活水準、文化水準を向上すること。

プロジェクトの説明：住、町を単位として、ときとき小さなイベントを行う。人と交流することがもっとうまくなる。そして、家族を感じ、寂しさがなくなる。
働く、都市の特色を強化し、外来の資金を導入する。働く場所も増える。

休養、発展するスピードをコントロールし、発展を続けるためである。

環境、景観を重視する。みんなにそれを見るだけで気持ちがよくなる。

プロジェクトの成果指標：できるだけ、みんなにその都市を好きになる。都市を守り、自分を守るためにもっと頑張れるようになる。